

農業後継者育成基金事業

平成26年度農業青年グループ等育成事業（地域青年農業者等グループ助成）

事業主体 薩摩さみどり会

1 目的

近年茶業を取り巻く環境は厳しく、荒茶単価は下降傾向にある。また、鹿児島県産茶は荒茶で70%が県外に出荷され、仕上げ茶比率は30%と低い状況が続いている。茶生産者の所得を上げるためには、生産者自身が仕上げ茶技術を習得し、販売する工夫や、消費者の興味を引くパッケージやデザイン技術の習得も重要となってきた。昨年度は自分達の特色を出したパッケージ作成に取組、販売会では一定の評価が得られた。しかし、消費者サイドに立った仕上げ技術や、パッケージ作成の必要性を東京販売会で痛感した。今年度は視点を消費者サイドにおき消費者を意識したマーケティング研修、更には東京で主婦を対象としたグループインタビューを実施し、消費者の意見を反映させたパッケージを作成した。

2 実施状況（主要なものを選定して記載してください）

（1）茶商との荒茶評価会の実施（H27年2月2日）

- ・実施場所 鹿児島県茶市場
- ・消費者と実際接する茶商の方々と意見交換することで消費者に好まれる、売れる茶づくりについて技術と情報を得ることができた。



（2）東京でのグループインタビュー（H26年11月21日）

- ・実施場所 東京遊楽館
- ・自分達が仕上げたお茶と作成したパッケージを都会の主婦の感性で本音で評価して頂いた。
- ・東京の消費者と直に話し、都会の消費動向について会員が肌で感じ、今後の茶づくりに役立てることができた。



3 今後の課題、取り組み

- ・継続した東京での販売会の実施
- ・今回のインタビューの結果を反映させた、さみどり会のコンセプト作成とそれを活かした新商品の開発